

埼玉大学学術情報システム (SUCRA) の構築について (案)

埼玉大学学術情報システム (SUCRA)

市民・産業界・官公庁／研究者・学生

Google・Yahoo

埼玉大学研究者総覧
Researcher Directory
(SUCRA-RD)

- 埼玉大学研究者の研究成果・研究活動を広く公開
- システム構築は研究・情報担当理事と図書館長の共同プロジェクト

研究者情報

フルテキスト

フルテキスト

埼玉大学機関リポジトリ
Institutional Repository
(SUCRA-IR)

埼玉大学研究者の研究成果 (フルテキスト) を収録・無料で提供

電子ジャーナル:
Electronic Journals

Nature/Science/Elsevier/
Wiley/Springer/etc.

Web of Science
へのリンクバック

フルテキスト

フルテキスト

スポット購入

Web of Science

- トムソンサイエンティフィック社が提供する学術文献データベース
- 世界の主要大学が利用

Web of Scienceへのリンクバック

開発中

埼玉大学学術情報システム (SUCRA) 構築の目的

- ◆ 埼玉大学学術情報システム(SUCRA) を構築し、学内の学術情報環境を整備すると共に本学の研究者の研究成果・研究活動等を広く国内外に発信する。
- ◆ 具体的には、「研究者総覧 (SUCRA-RD)」と「機関リポジトリ (SUCRA-IR)」の2つを柱とし、それに「電子ジャーナル」と「Web of Science」とを加えて相互に連携させたシステムを構築する。
 - SUCRA-IRは図書館が構築し、本学の研究者の研究成果を広く国内外に発信するという当初の目的を十分に果たしている。
 - 電子ジャーナル、Web of Scienceは図書館が導入済み。

SUCRA構築のメリット

◆ 研究者と大学の視認性の向上

- ・ 欧米の研究者の視認性は日本の研究者の3倍、各大学でResearcher Directoryを整備。
- ・ 日本でも各大学が研究者総覧を整備、全国版研究者総覧である研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD)はJST (科学技術振興機構 (文部科学省所管)) が運営。
- ・ 研究者総覧と機関リポジトリとの相互連携は世界的課題に。

◆ 研究者の利便性の向上と負担軽減

2,000万円/年の負担軽減 (400万円(新システム) - 2,400万円(現システム))

各種調査等に係る研究者の負担を金額換算で試算すると、

- 現システム；現・研究者総覧データ更新、科研費申請、ReaD調査
2,400万円/年 = 800万円[4,000円 (教員1人当たり時間給与) ×4h×500人]×3回
- 新システム；新・研究者総覧データ更新
800万円/年の半額 (データ更新の負担は現システムの半分以下)

◆ LOW COST

新・研究者総覧システムの価格は高性能になり現システムの半額程度。

研究者と大学の視認性の向上

- ◆研究者総覧と機関リポジトリとの相互連携により芋づる式に研究成果をアピール可能に。
- ◆自身の研究成果やアピールポイントを一番よく知っている研究者が、自身の公開情報を自由にデザイン。
- ◆上記により研究者と大学の視認性は最大化へ。

研究者の利便性の向上と負担軽減

- ◆データ更新の簡便化
- ◆ReaD調査へのデータ提供、科研費申請書などの帳票（EXCELファイル）作成サービスの提供
- ◆図書館による研究業績の代行登録

LOW COST

(非公開)

SUCRA構築担当

- ◆埼玉大学全学運営会議の下、研究・情報担当理事と図書館長の共同プロジェクトとする。
- ◆プロジェクトの実行は研究協力部（構築：図書情報課・情報基盤課、運用：図書情報課）において行う。

現・研究者総覧システムの問題点

(非公開)